

## 🌸 日韓共同研究中間成果発表会

2013年11月8・9日、大韓民国ソウル市の清溪川文化会館において「日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究中間成果発表会」を開催しました。奈良文化財研究所と韓国国立文化財研究所は、1999年に協定書を締結しました。これに基づき数年ごとに共同研究合意書を取り交わし、現在、「日韓古代文化の形成と発展過程に関する共同研究」に取り組んでいます。これまでの共同研究の成果は『日韓文化財論集』I、IIとして刊行してきました。今回の発表会は、2011年度の合意書にもとづくもので、研究状況の確認、課題の共有、討議により、研究成果の質的向上をはかることを目的としています。

奈文研からは、馬場主任研究員が「東アジア文字文化研究の深化を目指して」、諫早研究員が「新羅における初期金工品の生産と流通に関する一試論」、小田研究員が「古代日韓における有蓋台付椀の製作と展開について」、廣瀬研究員が「日韓壁画古墳および王陵級古墳の比較研究」と題し発表をおこないました。

韓国側からは、権宅章学芸研究士が「考古遺物にみられる文字記号に関する研究」、李恩碩学芸研究官が「韓日古代馬具製作方法研究」、韓志仙学芸研究士が奈文研の庄田研究員との共同研究成果として「食器と調理器具にもとづく韓日古代都城における飲食文化の復元研究」、申淙宇学芸研究士が「韓日大型古墳空間構造映像化のための物理探査研究」、徐民錫学芸研究士が「韓日古生物遺体比較分析研究」と題し発表をおこないました。発表後には自由討論の時間を設け、発表内容について質疑応答をおこないました。

本発表会では、相互の研究現状を把握し課題を共有するとともに、いくつかの問題について、さまざまな角度から濃密な議論をおこないました。今後の研究成果の取りまとめ、『日韓文化財論集』IIIの刊行に向け、大変有意義な会となりました。（都城発掘調査部 清野 孝之）



今回の共同研究中間成果発表会の出席メンバー